# 政務活動実施報告書

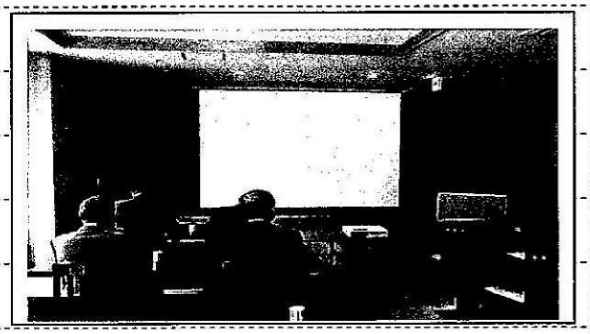
平成２７年　３月　６日提出

井原市議会議長　宮地俊則　様

報告者
河　合　謙　治

| | |
|---|---|
| 期　　間 | 平成２７年　２月２４日（水）～平成２７年　２月２５日（木） |
| 出張先及びセミナー名講師氏名 | １）徳島県勝浦郡上勝町　株式会社　いろどり<br>２）高知県安芸郡馬路村　馬路村農協 |
| 出張者氏名 | 井口　勇，大滝文則，三宅文雄，柳井一徳，河合謙治 |
| 調査項目 | １）葉っぱビジネス、インターシップ事業について<br>２）工場見学、ゆずによる村づくりについて |

１．上勝町について



（１）位置について

徳島県県庁から南西方向に４０ｋｍ（車で約５０分）の位置にある。（四国で一番小さな町）

（２）地形について

標高１００ｍから７００ｍの間に大小５５の集落が点在しており、総面積は約１１０ｋ㎡、内８９％が山林で、そのうち８２％が杉を主体とした人工林である。

（３）人口について

１，７６１人（Ｈ２６．９．１）、高齢化率は５１．０５％となっており、四国で最も人口が少なく、徳島県内で最も高齢化率が高い町である。

１．報告書は、視察・研修終了後２週間以内に提出してください。
２．スペースが足りない場合は、別途報告資料を添付してください。

受付
井原市
27. 3. -6
議会事務局

（3）彩（いろどり）事業について

「彩（いろどり）」とは、もみじ、柿、南天、椿の葉っぱや梅、桜、桃の花などを料理のつま物として商品化したものです。１９８７年に４軒の生産者とスタートした。現在の販売額は、約２億６千万円程となっており、中には、年収１，０００万円以上稼ぐおばあちゃんもいる。

葉っぱビジネスのポイントは、生産者、農協、市場をネットワークで結び、受発注情報全国の市況情報を迅速に共有することである。

（4）インターンシップ事業について

今から５年前、彩農家にアンケートを取ったところ、半数の農家が５年以内に引退すると回答した。その結果を受けて、後継者を呼び込むために始めたインターンシップ事業である。平成２２年８月の事業開始からこれまで４年間で５００名を超える若者が全国から集まり、そのうち３０名以上が町内に移住・就業した。

（5）その他の事業について

上記以外にも下記のような事業を実施されている。

1）ゼロ・ウェイスト宣言

2）有償ボランティア輸送事業

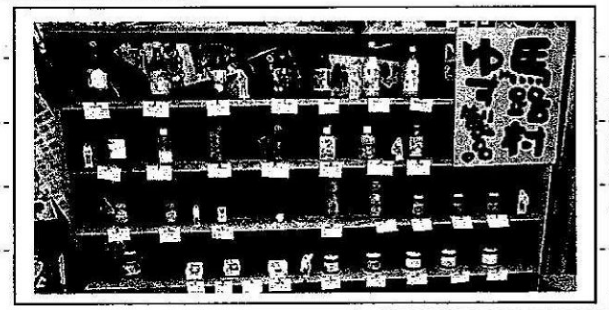
3）バイオマス事業

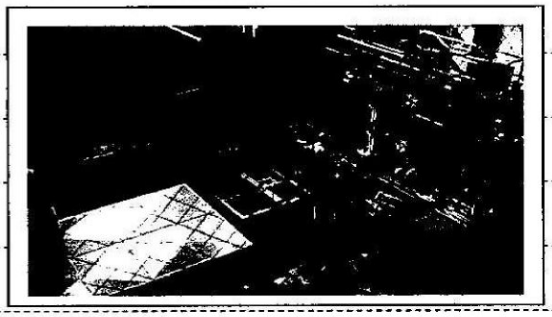
2．馬路村について

（1）馬路村農業協同組合について

馬路村農業協同組合は、昭和２２年農業協同組合法施行に伴い、産業組合から移行し、昭和２３年6月１５日に設立をした。当時の馬路村の人口は、約３，６００人でしたが、

産業構造の変化で、現在１，０００人を割込んでいる。村の面積の９６％が山林であり、農地が少なく、段々畑でゆず栽培（４５ｈａ）を行っている。米も自家消費として（１３ｈａ）が栽培されているが、年々減少している。馬路村農協の特徴は、昔からこの地で生産していたゆずの実を搾った果汁の販売だったが、徐々にゆず加工品の商品開発に取り組み、現在では５０種類以上のゆず製品を製造販売している。また、最近は食べ物以外の分野にも可能性を見いだし、化粧品の研究と製造も行っている。山村の働く場づくりを拡大し、行政と連携しながら、村の活性化に努めている。



３．所感

上勝町、馬路村共に、２，０００人と１，０００人足らずの町と村ではあるが、少ない人口と少ない資源のもとで、町民、村民が一致団結して知恵を出し合って町、村の存続に取り組まれている。我が市でも、市民全員がよりよい井原市にするために、「誠意努力して行かないといけない」と考える。その為にも、我々議員が市民の先頭に立ち、あらゆる意見の提言を提案することが重要であると考える。

様式第２号（政務活動実施報告書）

平成２７年３月９日

井原市議会議長
宮地　俊則　様

井原市議会議員　柳井一徳

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

| | |
|---|---|
| １．実　施　期　間 | 平成２７年２月２４日～２月２５日 |
| ２．研修会等の開催地または視察、要請・陳情活動先 | 徳島県上勝町：株式会社いろどり、上勝町役場<br>高知県馬路村：馬路村農協 |
| ３．研修会等の名称または視察、要請・陳情活動内容 | ２月２４日　１３：００～１５：３０<br>葉っぱビジネス及びインターシップ事業、廃校利用<br>２月２５日　１０：００～１１：００<br>ゆずジュース工場見学、ゆずによるむら作り |
| ４．研修会等の講師名または視察、要請・陳情活動先の担当者名 | （株）いろどり：谷氏<br>上勝町役場　企画環境課：桑原氏<br><br>馬路村農協：本澤氏 |
| ５．活　動　内　容 | ・（株）いろどりにおいて、葉っぱビジネスでは彩事業についての説明、インターシップ事業では農家、企業での研修の説明また、役場環境課で廃校利用の複合住宅の見学<br>・馬路村農協ではゆずを使った１次産品の６次産業化や工場見学及びゆずでのむら作りについての説明<br>詳細は別紙のとおり |

１．報告書は、政務活動終了後２週間以内に提出すること。
２．活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

上勝町、（株）いろどりでの研修視察の活動報告書

徳島県の上勝町は平成２７年２月現在で人口１，７３５人あまりの四国で最も人口が少なく、高齢化率（５１．３％）の高い町である。標高が１００ｍ～７００ｍの間に約５５の集落があり、林業を主体としていて総面積の８８，５％が山林でほとんどが杉の人工林である。他にはみかん農家が多かったが、昭和５６年の異常寒波でみかん、ゆずなどの柑橘類が全滅となり大打撃を受けた。また、安価な輸入材の影響で林業も振るわず、１９８７年当時の農協職員が料理のつま物に使う葉っぱを商品化した葉っぱビジネスを彩（いろどり）と名づけ４件の生産者とスタートした。現在は２００件の農家が平均年齢７０歳で生産者として参画している。年収は１，０００万円を超える人もいて、全体での売上は約２億６千万円となっている。

このビジネスの成功には現社長の農協職員時代からのなんとかしなければとの発想がきっかけで、試行錯誤を繰り返し、山ならではの葉っぱビジネスに思い立った。一人で全国に営業活動を繰り返し現在のシェアを築いた。みかんなどの柑橘類、林業での生計は異常気象での枯死や安価な輸入木材の影響で非常に厳しくなり代替に成功した。街の高齢者や女性にも生産できるこの葉っぱは南天、もみじ、椿などあらゆる木々が使え、時間を有効に使い売上を上げている。このビジネスは（株）いろどり、農協（市場）、生産者をネットワークで結び、受発注、全国の市況の情報を迅速に共有し、受発注など３者一体で運営している。時間の有効利用とは端末タブレットで家庭にいて瞬時に受発注できる点で高齢者のために使いやすい工夫を年々して現在のタブレットに至っている。そして、生産者同士に競争心ややる気を出させる情報を流したりして、高齢者や女性達が元気になり町の雰囲気が明るくなったとのことであった。

つぎにインターシップ事業では高齢者が５年後には引退する予想から後継者作りのために町は７００～８００万円の事業予算を計上し、平成２２年からの４年間で全国から５００名を超える若者が研修に集まり、３０名以上が移住、就業した実績がある。研修生を受け入れることにより高齢者も張り合いが生まれ、以前より元気になるという効果もあり研修生が来るのを楽しみにしている人も多いとのこと。研修生には旧教員宿舎に２０名分の無料の宿泊施設を与え、町のいろんなイベントや住民たちとの交流会で住みたくなるような体験をさせている。

また、役場の施策の廃校利用にも工夫を感じた。小学校校舎の再利用で複合住宅を経営、企業用の事務所と住宅の複合で、住宅は個人借家なので見学はできなかったが、事務所は拝見することができ、特産品の杉を室内の壁に貼り付け木の香りがする落ち着いたものであった。空き家が町内にはあるが、他人への貸し出しは墓守、畑地の維持などある所有者から嫌がられ、困難とのことで、町営住宅として廃校利用となった経緯がある。

今回の上勝町の事業は官民一体となった取り組みが見事に花を咲かせ町民が誇りを持ち、生き生きとして労働を楽しんでいること、やる気のある人たちが自分たちの住む町を変えられるということを実感した実に有意義な視察であった。

議会人としてこのようなやる気ある頑張り屋さんが出ることを期待したいし、そういう人材の育成、発掘にアンテナを広くし、あらゆる情報の収集に努め、町を活性化できる人のサポートをしたいと思う。

馬路村農協のゆず６次産業化の視察研修報告書

馬路村は人口１０００人で林業とゆず生産と６次産業による商品販売が主な業種で
ゆず農家は１９０軒、ゆずポン酢でトップメーカーとなるまで１５年を費やしゆずの街として全国に知れ渡っている。農家は１反辺り２トンのゆず生産で売上は１ｋｇ１５０円、１ａ辺り平均で６０～７０万円となり、ゆずは農協が買取り、６次産業でゆずポン酢、清涼飲料、化粧品と絞り汁、皮、種と全てを使い商品化している。
農協は搾汁工場、ドリンク工場、化粧品工場、ポン酢工場と村内に１５億円をかけて整備している。国１/2、県 1/2、村１/4、JA1/4 の補助金で設立したこの事業は年間売上が３５億円で通販が中心でオペレーションセンターで受注、配送工場で手詰めの配送荷作り、宅配便にて出荷となっている。問題点は高齢者による後継者不足で新規就農者への支援も村と共同で行い、村内に８人の新規就農者が住んでいる。そして、ゆず生産の畑は JA 準備をしている。いずれにしても JA、村、農家ともに粘り強く根気よく頑張っていることで現在の地位を確立した。
今回の視察の２箇所とも人材の養成、マスコミなどの使い方、行政も農家もやる気で頑張っていることが挙げられる。本市においても同じような課題はあり、特に農家の後継者問題は深刻であり、新規就農者への支援は農地、住宅、諸補助金など必要で JA とも協力して井原ブランドの確立に向けて農産物の品質向上、販路、デリバリー、市場調査、PR 活動、販促など研究指導が大切であり、また、６次産業化の企業誘致も特化し、農産物を使って商品化できるメーカー誘致に努力も一考ではと考える。

様式第２号（政務活動実施報告書）

平成２７年３月９日

井原市議会議長
宮　地　俊　則　　様

井原市議会議員　　三　宅　文　雄

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

１．実　施　期　間

平成２７年２月２４日～２月２５日

２．研修会等の開催地または視察、要請・陳情活動先

１）徳島県勝浦郡上勝町　株式会社いろどり

２）高知県安芸郡馬路村　馬路村農協

３．研修会等の名称または視察、要請・陳情活動内容

１）葉っぱビジネス、インターンシップ事業他

２）工場見学、ゆずによる村づくりについて他

４．研修会等の講師名または視察、要請・陳情活動先の担当者名

１）徳島県勝浦郡上勝町役場　　副町長　　森　周一　様
同県　同郡　同　役場　参事兼企画環境課　　課長　　桑原定夫　様
同県　同郡　同町　　株式会社いろどり　視察担当　　谷　健太　様

２）高知県安芸郡馬路村　馬路村農業協同組合　営農販売課広報係　本澤侑季　様

５．活　動　内　容

１）彩事業、インターンシップ事業、ごみゼロ推進事業、廃校利用について
月ヶ谷温泉月の宿研修室における事業説明、及び廃校跡地利用についての現地視察

① 彩事業について

彩（いろどり）事業とは、もみじ、柿、南天、椿の葉っぱや梅、桜、桃の花などを料理のつま物として商品化したものです。多品種少量生産で、３２０種類の品物が、短期に受注発送できるシステムを完備しています。上勝町は標高１００ｍから７００ｍの急峻な地形で、四季折々、平坦な地形では見られないような植物の変化がこの地域にはあります。葉っぱや花、これらの植物は軽量で身近にあり、高齢者や女性でも取り扱うことができる商材であることから、昭和６１年に４軒の生産者でスタート、事業化を開始し、現在では、国内シェア８割、売上高も年２億６千万円で生産者も２００軒に増加しました。発足当初は防災無線のＦＡＸ送信システムを使用してＪＡが情報発信していましたが、パソコンの普及と共に、最近ではタブレットを使用しての情報発信をしています。家の中はもちろんのこと、畑にいても山の中に入っていてもタブレットを持ってさえいれば瞬時に情報が入ってきて顧客からの発注に対応できる態勢になっています。

株式会社いろどりは、上勝町の町長が代表取締役を務めている第３セクター企業で、従業員は６名、葉っぱビジネスの売り上げの５％を報酬としていただき、葉っぱビジネス以外の事業も展開しているそうです。生産者の方々も発行株式の３０％を所有していて、経営にも参画しています。

② インターンシップ事業について

生産者の平均年齢が７０歳、今後１０年以内に彩に参加している農家が半減するであろうと予測されます。後継者がいなくなるおそれがあることから、後継者を呼び込むために、平成２２年からこのインターンシップ事業が始まりました。廃校で不要となった小学校の教員宿舎を宿泊施設として研修生の募集を始めたところ、これまでの４年間に５００名を越える若者が全国各地から集まり、３０名以上が町内に移住、就業されました。町の社会動態増にもつながり、近年では転入者が地域資源を活かして起業、事業家にも挑戦しています。インターンシップ研修生を受け入れることで、高齢者も仕事に張り合いが生まれ、以前より元気になってきたという効果もでてきています。

③ ごみゼロ推進事業について

未来の子供たちにきれいな空気やおいしい水、豊かな大地を継承するため、２０２０年（平成３２年）までに上勝町のごみをゼロにすることを決意し、上勝町はごみゼロ（ゼロ・ウェイスト）宣言、平成１５年９月議会で議決を行いました。上勝町はごみの焼却施設を持たない自治体であり、町内には現在焼却施設はありません。具体的には３Ｒ（リデュース・リユース・リサイクル）などの実践や、そもそもゴミにならない仕組みや物作りを求めることによって、資源を有効に活用し、償却・埋め立てごみを限りなくゼロに近づけようという取り組みを行っています。資源ごみも３４種類に分別、その手伝いをする方もおられるし、使えるものは無料で持っても帰れる。不要になったものでも、おばあちゃんたちがリメイク販売するなどしてごみゼロに向けて様々な取り組みを行っています。

④ 廃校利用について

上勝町の人口は昭和３０年には６２６５人でした。当時、小学校は５校、中学校も２校ありました。５０年余り経過した今日では、人口も約３０％減少し、平成２７年２月１日現在の人口は１７３５人です。小学校、中学校ともに統廃合により　平成１１年からは小学校１校、中学校１校の体制になりました。

そこで廃校した跡地をいかに活用していくか、行政側も地域住民とともに協議を重ねてきました。今回は昭和４０年に建築された、旧福原小学校跡地を視察させていただきました。町役場の方の案内により、定住促進住宅として活用し、現在の名前は落合複合住宅という施設であるの説明をしていただきました。

平成１１，１２年度で、町特産の杉材をふんだんに使用、工事費約２億円をかけ

改造し、現在１階に貸事務所が５室、２，３階に賃貸住宅が８軒あるとのことです。それぞれの部屋は、ずっと今までほとんど埋まっていたとのことである。
運動場が駐車場となっているので、駐車スペースも十分あります。また隣の体育館は町役場の書類保管施設となっているそうです。

所　見

上勝町は徳島市から車で約１時間位、四国で一番小さな町です。人口は現在、７３５人、高齢化率は５１％である。勝浦川の深い渓谷、ごくわずかに平地がみられるなかで、人々は実に元気でたくましく生きておられると感じました。若い人たちが興味を持ち、住んでみたい気持ちになるというのがよくわかりました。それだけ魅力ある町です。（株）いろどりの視察担当者の説明を同志社大学の政策研究会の４人と一緒に聞きました。葉っぱを収穫する山の値段がなんと１千万円、それだけこの地域は資産価値があるということです。井原市も人口減少が続いています。若い人たちの定住促進、移住対策が僅々の課題となってきました。「元気いばら創生戦略本部」の設置を機に、執行部とも力をあわせて魅力が持たれるような街づくりをしていかなければならないと感じました。

２）ゆずの森加工場視察（馬路村農業協同組合）について

馬路村は昔から杉の生産が盛んな村でした。村全体の面積の９６％を山林が占め、うち国有林が７５％で、昔からこの村は典型的な林業の村でした。ここには以前営林署があり森林鉄道も走っていたとのことです。しかし近年、住宅はじめ建築材料の多くに外国産の木材が多く使用されるようになり、国内の森林産業は衰退に伴い営林署も閉鎖されてしまいました。人口もピーク時には３，６００人位いましたが、現在では９３５人にまで減少しています。高知県内でも人口が２番目に少ない村で、幾度の市町村合併の機会も、村民の反対多数によって合併協議を離脱しており、村民の自立意識が非常に高いのもこの村の特徴でもあります。テレビコマーシャルにもよく出ているこの馬路村に是非伺ってみたいと思い計画しました。
着いてからまず初めに、馬路村農業協同組合の広報担当の女性の方にゆずの森加工場の内部を案内してもらいました。平成１８年に完成したこの施設は総工費が１５億円、国が１／２を補助してくれて、残りの１／４を県、残りの１／４を馬路村と馬路村農協がそれぞれ負担して出来た施設とのことです。
とにかく立派な施設で感心しました。搾汁工場は見学はできなかったが、瓶詰めのラインから製品の発送をしているところまで、つぶさにみせていただき、また近年は化粧品の分野にも進出していて、研究室も見学することができました。
それから研修室に移動、ＤＶＤを見せていただき質疑応答の時間をいただきました。馬路村は畑や住宅地などの面積は全体の１％にも満たない村である。従って耕作放棄地などはない。兼業農家が多くて、組合員数は６０７人、ゆずの買い上げ価格は１㎏当たり１５０円で１０アール当たり約２トンを収穫、平均２０アールである。農家１軒当たりのゆずの年収は平均６０万円ということになります。多い農家は７０アール耕作しておられる方もおられるとか。近年８人が新規就農しているという話も聞いた。「日本の最も美しい村連合」のひとつであります。

所　見

馬路村農協は「とにかくすごい」の一言に尽きる。一般企業であれば超優良企業である。職員数は９０名、年間売上高は３４億円、最近は毎年馬路村へ１０００万円ずつ寄付をしているそうである。芸能人で、以前この地を訪れたこともある故渡辺文雄氏は言っている。「村おこしはとにかく辛抱である。ここだって今になるまで１５年かかった。諦めないで粘り強くやって下さい」と、確かにその通りである。地方創生元年の今年、いよいよ本市においても「げんき井原創生本部」を立ち上げ、本格的に取り組むことになった。この馬路村の視察を契機として、今後の市政に反映してゆきたい。

１．報告書は、政務活動終了後２週間以内に提出すること。
２．活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

様式第２号（政務活動実施報告書）

２７年　　３月　　１０日

井原市議会議長
様

井原市議会議員　　大滝文則

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

| | |
|---|---|
| １．実　施　期　間 | 平成２７年２月２４日（火）～２月２５日（水） |
| ２．研修会等の開催地または視察、要請・陳情活動先 | １）徳島県上勝町　　株式会社いろどり<br>２）高知県馬路村　　馬路村農協 |
| ３．研修会等の名称または視察、要請・陳情活動内容 | １）葉っぱビジネス、インターシップ事業他<br>２）工場見学、ゆずによる村づくりについて他 |
| ４．研修会等の講師名または視察、要請・陳情活動先の担当者名 | （株）いろどり　谷氏<br>上勝町役場　企画環境課　桑原氏<br>馬路村農協　本澤氏 |
| ５．活　動　内　容 | １）上勝町においての葉っぱビジネスの取り組みの経緯と現状<br>２）廃校を利用した跡地利用について<br>３）インターシップ事業について<br>４）馬路村農協・ゆず加工場施設の見学<br>ゆずの村への取り組みの経緯と現状について<br>詳細は別紙のとおり |

１．報告書は、政務活動終了後２週間以内に提出すること。
２．活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

１）　以前の産業は、香酸柑橘（みかん）、林業が盛んであったが外材の輸入が増大したための木材不況とＳ５６年・２月マイナス１３度の異常寒波によりほとんどのみかんが枯死したことから、町の産業に対する危機感を感じた当時農協職員だった横石知二（現・いろどり社長）が「彩」と名付けて１９８７年に４軒の生産者とスタートされました。自らセールスや市場調査を行うことにより市場との信頼関係が徐々に構築され、また標高１００Ｍから７００Ｍという自然が長期の出荷体制が可能になるという環境に恵まれ、現在では売上２億６０００万円ほどに成長しているとの事でした。

　生産者、農協、市場をネットワークで結び、受発注情報、全国の市況情報を迅速に共有する「上勝情報ネットワーク」、出荷・受注業務を効率化するために、防災無線FAXやパソコンを積極的に導入し、現在ではタブレットによる受注システムも導入するという先進的な取り組みもされていました。

２）　住民との協議のなかで廃校になった学校を利用出来ないかとの声が挙がり「廃校を利用した定住促進」の取り組みが検討されました。廃校舎の改修にあたっては国の補助事業により建築された校舎を学校以外の目的に使用する場合、自治体は補助金相当額を国に返還する事が原則となっていたが、国、県への協議により公共目的の使用に限り返還金なしで転用が認められ改修に着手し住宅８戸、貸事務所５室の複合住宅にリニューアルされたとの事でした。改修に要した約２億円の財源は、交付税措置を伴う起債８７％県補助金が１２％一般財源１％のことでした。

３）　過疎化が進む町に「後継者」を！

　５年前、彩農家にアンケートをとったところ、半数の農家が５年以内に引退するとの回答し、その結果を受けて「後継者」を呼び込むために「インターシップ事業」を２２年８月より素早く事業開始されました。４年間で５００名を超える“若者”が全国各地から集まり、そのうち３０名以上が町内に移住・就業されたとの事です。転入人口が転出人口を上回ることにも繋がっており最近の動向は転入者が上勝町内で地域資源を生かしたビジネスを起業し、事業化に挑戦しているとのことでした。

４）　馬路村農協のあゆみとゆず加工場の設立経緯を広報担当の職員さんから丁寧に説明して頂きました。馬路村は柚子と林業のまちであり特産品には木工品（例・木のカバン、食器等）があり工場自体が木の温もりを感じる造りにもなっていました。現在の工場は旧営林署跡地に平成１４年より計画され平成１８年に完成されました。人口約１０００人の村に約１５億円の投資をすることによって得られた経済効果は想像以上に大きく今では約３２億円の売り上げを計上し約９０人の雇用を生むまでの成長をされていることに驚きと敬意を感じました。人口減少が進んでいく事に変わりがない中、馬路村そのものが商品として全国的に認知されている歴史は、馬路村より圧倒的に恵まれた環境にあるわが町にはない輝きを感じる研修となりました。

様式第２号（政務活動実施報告書）

平成２７年３月３日

井原市議会議長
宮　地　俊　則　　様

井原市議会議員　　井　口　　勇

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

| | |
|---|---|
| １．実　施　期　間 | 平成２７年２月２４日（火）～２月２５日（水） |
| ２．研修会等の開催地または視察、要請・陳情活動先 | ⑴ 徳島県上勝町　株式会社いろどり<br>⑵ 高知県馬路村　馬路村農協 |
| ３．研修会等の名称または視察、要請・陳情活動内容 | ⑴ 葉っぱビジネス、インターンシップ事業他<br>⑵ 工場見学、ゆずによる村づくり他 |
| ４．研修会等の講師名または視察、要請・陳情活動先の担当者名 | ⑴上勝町副町長森周一、参事兼環境課長桑原定夫<br>㈱いろどり視察担当谷健太<br>⑵馬路村農協協同組合営農販売課広報係本澤侑季 |
| ５．活　動　内　容 | 別紙に記載 |

１．報告書は、政務活動終了後２週間以内に提出すること。
２．活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

別紙

⑴徳島県上勝町
徳島市中心部から車で約１時間の場所にあり、人口 1,735 人、841 世帯、高齢者比率が 51.3%、総面積の 88.5%が山林であり、四国で一番小さな町。
●町の主な取り組み
料理に添える葉っぱを産業にした彩農業、ゼロ・ウエスト宣言、木質バイオマス、再生エネ支援、上勝アート里山の彩生、上勝町持続可能な美しいまちづくり基本条例を制定し、美しい集落再生支援、棚田保全活動、第三セクター5 社設立、空き家活用、企業家育成等。
●廃校を活用した定住促進の取り組みについて
廃校舎を利用し養護老人ホーム、公営住宅、複合住宅（賃貸住宅・貸事務所）、研修施設を整備している。交通網、情報網の整備により、中山間地域における産業振興の可能性を拡大し、併せて住宅を整備することにより、若者定住や雇用創出に大きな効果が生まれているとのことである。
今後の課題としては、建物の老朽化に対する対策。

⑵高知県馬路村
高知県中心部から車で約 2 時間の場所にあり人口約 1,000 人、約 450 世帯、村の面積の 96%が山林の小さな山村。
●村の主な取り組み
農地が少なく段々畑でゆず栽培（45ha）を行っている。米も自家消費として（13ha）栽培されているが年々減少しているとのこと。ゆずの買付から加工、販売まですべて馬路村農協で行っている。馬路村農協の特徴は、ゆずの実を絞った果汁の販売であったが、徐々にゆず加工品の開発に取り組み、現在では５０種類以上のゆず製品を製造販売している。また、最近は食べ物以外に化粧品の研究と製造も行っている。山村の働く場を拡大し、行政と連携しながら村の活性化に努められておられる。馬路村農協協同組合は、組合員数 641 人、組合員戸数 355 戸、ゆず出荷戸数 190 戸、役職従業員数 90 名。
●まとめ
いずれの町・村も以前は林業中心に栄えた地であったが現在では少子高齢化が進む中、上勝町では料理に添える葉っぱを産業化し、高齢者の方々が高い収益をあげると共に元気に暮らしている。馬路村農協では、ゆずを 6 次産業化し年間総売上約 34 億円（ネット販売中心）、雇用約 90 人、利益の一部である 1000 万円を毎年村へ寄付。ゆずを作ることにより荒廃地はほとんどないとのこと。
いずれの町・村も、山村を最大限活かしたまちおこしであり、中山間地域の模範である。大変参考になった。